

Title	ビジネスコンサルタントのキャリア発達に関する研究：ストレスと職務満足の視点から
Sub Title	
Author	磯, 明香(Iso, Sayaka) 渡辺直登
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1998
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1998年度経営学 第1405号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001998-1405

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	渡辺 研究会	学籍番号	89628091	氏名	磯 明香
(論文題名)					
<p style="text-align: center;">ビジネスコンサルタントのキャリア発達に関する研究 —ストレスと職務満足の見点から—</p>					
(内容の要旨)					
<p>本論文では、プロフェッショナル集団として認知されているビジネスコンサルタントの内面を明らかにすることをテーマとしている。伝統的日本企業において、必要とされる人材が、ジェネラリスト型からプロフェッショナル型へと変わってきており、従来の人事施策では十分に機能しきれない面が出てきていると思われる。そこで、プロフェッショナル集団であり、また仕事給/職務給で評価する職務中心主義の人事システムが、既に定着化しているコンサルティング会社の研究を行なうことにより、今後企業が人事施策を見直していく際に、多少なりとも参考になるのではないかと、ということがここでの主旨である。</p> <p>研究対象企業として、アンダーセンコンサルティング社を選んでいる。まず、個人に焦点をあて、どのように働いてきたかを中心に 12 名から面接と聞き取り調査を行なっている。セミストラクチャード・インタビューの方法を採ることにより、枠組みでは捉えきれない見えない部分を顕在化することに努めている。そこから、キャリア途上における心の動きの傾向、情緒的高揚と落ち込みの反応カテゴリー、コンサルタントとして働く上での意識や考え方等を整理している。次に、組織に焦点をあて、面接と聞き取り調査から得られた、特徴的な「やる気をなくさせたり起こさせたりする事柄」を一部加えた調査票を作成して、質問紙調査を 76 名に行なっている。AC社員はキャリアの方向性として、向会社タイプよりも反会社タイプを選ぶ傾向があることがわかった。さらに、職務満足はキャリアの方向性に多少ではあるが影響を与えていることや、人間関係と勤続年数の長さが仕事満足に影響していることがわかった。ここでは、統計的手法により仮説の検証を行ないながら、最終的に、人事施策における改善案の提言を行なうものである。</p>					